

02-008

病院小児科が減少して救急搬送先はどう
変化してきたのか

—平成22年と26年の比較—

江原 朗

広島国際大学 医療経営学部 医療経営学科

【目的】

小児科を有する病院の数は減少の一途をたっており、平成22年から26年の4年間だけでも2,808施設から2,656施設へと152施設が消えている。病院小児科の減少は、地域に居住する子どもたちの医療機関へのアクセスを悪化させる危険性があるが、一般小児の受診動向について十分な知見が存在しないために小児の医療機関へのアクセスに関する研究は十分には行われていない。一方、救急搬送に関しては各消防本部が資料を集積している。そこで、小児の救急搬送に着目し、最も救急搬送された医療機関がここ数年でどう変化したかを明らかにすることにした。

【方法】

平成22年から26年における18歳未満の救急搬送患者数、最も18歳未満の搬送患者数が多い医療機関の名称およびそこへの搬送患者数について、全国750の消防本部にアンケート調査を行った。搬送時間帯は、平日（月～金曜）の日中、日曜の日中、平日・日曜の夜間に分けた。

【結果】

750消防本部中668本部（回答率89.1%）から回答を得ることができた。回答のあった消防本部の管轄人口は全国の80.2%に相当した。ほとんどの消防本部で18歳未満の救急患者の搬送先が最も多い医療機関の変更はなく、最も搬送患者数が多い医療機関が平成22年と26年において一致していた消防本部の比率は、平日の日中79.2%、日曜の日中71.1%、平日・日曜の夜間83.3%であった。消防本部の管轄人口規模別に見ると、平日の日中では5万人以上（非政令指定都市）、日曜の日中では10万人以上（非政令指定都市）、平日・日曜の夜間では10万人以上（政令指定都市を含む）において一致率が全国値を上回っていた。

一方、18歳未満の搬送患者数に占める最多搬送医療機関の比率は、平成22年（平日の日中22年31.5%、日曜の日中22年33.5%、平日・休日の夜間35.1%）に比べて平成26年（平日の日中33.4%、日曜の日中36.0%、平日・休日の夜間37.2%）の方が高い値となっていた。さらに、管轄人口の規模別に見ると、平日の日中は5万人以上（非政令指定都市）、日曜の日中は5万人未満および10万人以上（非政令指定都市）、平日・日曜の夜間は政令指定都市を除く全人口規模で上昇率が全国値を上回っていた。

【結論】

病院小児科が減少しても、各消防本部において最も18歳未満の搬送患者が多い医療機関はほとんど変わらず、むしろこれらの施設への搬送の集約化が図られるようになった。

02-009

保育園、幼稚園児の傷害に関わる遊具、
備品などの解析松浦 信夫¹、西田 佳史²、岡 敏明³、
出口 貴美子⁴、高橋 かほる¹、腰川 一恵¹、
原田 正平⁵¹聖徳大学 児童学科、²産業技術総合研究所、³札幌徳州会病院 小児科、⁴出口小児科医院、⁵国立成育医療研究センター

【目的】

子どもの死因の上位は、不慮の事故が占めている。我々は、文部科学省科学研究費の助成を受け、子どもの事故（以下傷害）の要因解析を行い、昨年の本学会で報告した。平成27年10月末で傷害登録を終了し、3年間の研究期間中に313例の傷害例を登録した。この内、保育園、幼稚園児の傷害は最も多く198例であった。傷害の種類としては、衝突、転倒、落下が多く、多くは子ども自身、又は園児同士による傷害であった。今回、園児達の傷害に関わっていた遊具を含めた器機などによる傷害を明らかにし、何らかの改良により傷害防止につながられるか検討した。

【方法と対象】

19施設から登録された傷害例について、傷害の種類、傷害の内容を明らかにし、この内器機による傷害を分析した。

【結果】

保育園児、幼稚園児の傷害総数は198例（男児74例、女児60例）であった。この内、遊具などによる傷害は81件（40.9%）であった。1）遊具などの種類は、文具、玩具（カッター、ハサミ、ショベルなど）15例、固定遊具（滑り台、雲梯、ブランコ、鉄棒、トランポリンなど）35件、移動などが出来るその他の遊具（自転車、一輪車、など）15例、備品（はしご、ベンチ、ベット、ほうき）などが16例であった。2）受傷年齢は、4～5歳の年長児が多く、当然保育園児より幼稚園児に多くみられた。3）性差は、他の傷害と同じように、保育園児は余り大きな違いを認めないが、幼稚園児では、圧倒的に男児が多かった。4）骨折、脱臼を重症傷害とすると、14例の児が起こしていた。5例は滑り台、3例は雲梯、1例は肋木など、すべて固定器具、遊具であった。

【考察】

保育園児、幼稚園児の傷害の内、器具による傷害を取り上げ検討した。遊具、文具などは多岐にわたり、多くの施設で使用されているものであった。重症傷害例である骨折、脱臼は、滑り台、雲梯、肋木であった。滑り台の降り口や雲梯落下面がどのようになっていたか、現在追跡調査中である。ゴムマットなど敷いてあれば、骨折など重症傷害を防ぐことが出来るか、検討し報告する。